

研究報告

大学生の母性看護学実習前・後における妊婦・褥婦・新生児のイメージ変化

二宮寿美¹⁾ 村山美香¹⁾ 長川トミエ¹⁾¹⁾ 宇部フロンティア大学人間健康学部看護学科

キーワード；大学生，母性看護学実習，妊婦・褥婦・新生児，イメージ

I. はじめに

A大学看護学科の母性看護学実習は、実習目標の1つに「妊婦・産婦・褥婦・新生児のウェルネス型看護過程を学ぶ」を挙げ、実習内容は産婦人科外来では、定期健康診査受診妊婦を受け持ち、見学及び実践を通して、身体的、精神的看護を学ぶ。産婦人科病棟では、産褥期の母子を受け持ち、看護過程の展開を通して、母性看護および看護技術の見学と実践を体験する。母性看護学臨地実習の中核は、周産期（妊娠・分娩・産褥・新生児期）の生理的経過が理解でき、健康の保持・増進の看護、いわゆるウェルネス看護の実際を学ぶ唯一の科目である。

臨地実習は知識と技術を統合する重要な授業科目であり、実習での体験は自らの看護の役割を構築する機会となる。また、母性看護学の講義・実習を受講して、学生たち自身は女性として男性として、出生家族と新しい家族形成とを考えることができ、その役割が担える大人に成長して欲しいと願っている。

少産少子の現在、大学生たちは幼いきょうだいや地域の子どもたちとの関わりは少なく、また、看護師を志望する男子学生も今後増大することが予測される。これまでに母性看護学の講義・演習を展開したが、受講中の学生の妊婦、産褥婦、新生児への興味の示し方は希薄で、教育方略の工夫の必要性を感じている。

そこで、学生たちは臨地実習前に妊婦、産褥婦、新生児と触れ合うことができた経験の有無、そして実習体験の状況を通して実習後には妊婦、産褥婦、新生児に対するイメージは変化するのではないかと考え、実習前・後の学生の「妊婦、褥婦、新生児のイメージ」の変化を明らかにし、今後の講義・実習の展開に役立

てるための基礎資料とする目的で、実習前と実習後に調査を行い、その関連を検討した。

II. 方法

自己記入式質問紙による調査研究である。

1. 研究対象

研究対象者は、A大学看護学科3年次生69名中有効回答が得られた。67名（男子9名、女子58名）（回答率97.1%）である。

2. 調査項目

1)実習前に妊婦と「会話したことがある」、褥婦と「会話したことがある」、新生児を「抱っこした」、「オムツ交換した」の経験（以下「経験状況」という）の有無

2)実習終了後には、「妊婦健診受け持ち人数」、「分娩見学の有無」、「産褥母子受け持ち日数」の体験（以下「体験状況」という）

3)実習前・後の妊婦・褥婦・新生児のイメージ

OsgoodによるSD法の測定尺度12項目（態度：好きーきらい、楽しいーつまらない、親しみやすいー親しみにくい、美しいー醜いの4項目、力量性：柔らかいー固い、安定したー不安定な、大きいー小さい、広いー狭いの4項目、活動性：明るいー暗い、強いー弱い、暖かいー冷たい、軽いー重い）の5段階評価を用いた。評定点2.9点以下を「肯定イメージ」、3.0点以上を「否定イメージ」とした。

ここで用いた用語：「態度」は、ある特定の対象または状況に対する行動の準備状態。また、ある対象に対する感情的傾向。「力量性」

は、物事を成し遂げる力の程度、能力の大きさ。「活動性」は、活発に動くこと、ある動きや働きをすること（松村明監修 大辞泉 小学館 1995 による）。

3. 倫理的配慮

学生には、実習オリエンテーション時に本調査の目的、方法について、文章により説明、協力を依頼した。回答用紙は厳重に保管し、適切な統計処理によって個人名は出ないこと、結果は報告資料として公表することを説明した。調査表の提出をもって同意とした。

4. データの分析

結果の集計と分析には統計ソフト SPSS (16.0 Ver) を用いた。実習前後のイメージの変化、イメージと経験の有無の比較には t 検定、実習前と実習後における 3 イメージ比較には一元配置分散分析を用いた。有意水準 $P < 0.05$ とした。

III. 結果

1. 実習前と実習後の経験状況とイメージ

1) 実習前の経験状況とイメージ

実習前の経験は、「妊婦と話したことがある」34 名 (50.8%)、「出産直後の褥婦と話したことがある」24 名 (35.8%)、「新生児を抱っこ」39 名 (58.2%)、「オムツ交換」13 名 (19.4%) であった。

実習前の妊婦のイメージ、褥婦のイメージ、新生児のイメージ平均点は図 1-1~3 に示した。

3 イメージの態度の 4 項目は、いずれも平均点は、妊婦、褥婦、新生児すべてに肯定イメージを示し、その中でも新生児は妊婦、褥婦に比べ有意に肯定イメージを示した。

力量性の 4 項目は、肯定イメージは妊婦に 3 項目、褥婦に 4 項目すべてに、新生児は 1 項目であった。否定イメージは新生児に 2 項目あり、2 項目ともに妊婦、褥婦に比べ有意に否定イメージを示した。

活動性の 4 項目は、肯定イメージは妊婦に 3 項目、褥婦は 4 項目すべてに、新生児は 3 項目であった。否定イメージは妊婦、新生児に各 1 項目あった。この否定イメージを示した 1 項目は、妊婦と新生児、褥婦の間で妊婦が有意に否定イメージを示し、他の 1 項目は、新生児と妊婦、褥婦の間に新生児が有意に否定イメージを示した。

経験別とイメージ平均点は図 2-1~4 に示した。

妊婦との会話経験の有無による実習前の妊婦イメージ平均点は、4 項目ともすべて肯定イメージであったが、その中で話したことがあり群となし群を比較すると、態度の 2 項目（好き-きらい、美しい-醜い）にあり群が有意に肯定イメージを示した。力量性 4 項目、活動性 4 項目には有意差は認められなかった。

褥婦との会話経験の有無による実習前の褥婦イメージは、態度 4 項目はすべて肯定イメージを示したが、有意差は認めなかった。力量性は 2 項目が肯定イメージ、2 項目が否定イメージを示したが、有意差は認めなかった。活動性 3 項目（明るい-暗い、強い-弱い、暖かい-冷たい）は、あり群に肯定イメージが有意に高かった。

新生児を抱っこした経験の有無による新生児イメージは、態度の 2 項目（好き-きらい、楽しい-つまらない）、活動性の 1 項目（明るい-暗い）は、あり群に肯定イメージが有意に高かった。

新生児のオムツ交換経験の有無による新生児イメージは、態度の 1 項目（好き-嫌い）は、あり群に肯定イメージが有意に高かった。力量性の 1 項目（大きい-小さい）は、あり群が有意に否定イメージであった。

2) 実習中の体験状況と実習後のイメージ

実習中の体験状況は、妊婦健康診査受け持ち平均数は 5.3 例（以下 5 人以下群 32 名と 6 人以上群 35 名に分ける）、産褥母子受け持ち平均日数は 3.38 日（以下 3 日以下群 28 名と 4 日以上群 39 名に分ける）、分娩見学ありは 28 名 (42.2%) であった。

実習後の妊婦のイメージ、褥婦のイメージ、新生児のイメージ平均点は図 3-1~3 に示した。

3 イメージの態度の 4 項目平均点は、妊婦、褥婦、新生児ともにすべてに高得点の肯定イメージを示し、2 項目（好き-きらい、楽しい-つまらない）は妊婦、褥婦に比べ新生児が有意に肯定イメージを示した。

力量性の 4 項目は、妊婦、褥婦イメージ平均点はすべて肯定イメージを示した。新生児では、肯定イメージの 2 項目（柔らかい-固い、広い-狭い）は、妊婦、褥婦に比べ有意に肯定イメージを示し、否定イメージ 2 項目（安定した-不安定な、大きい-小さい）は、妊婦・褥婦に比べ新生児が有意に否定イメージを示した。

活動性では、妊婦は 3 項目が肯定イメージ、1 項目が否定イメージを示し、褥婦は 4 項目とも

肯定イメージであった。新生児は、3項目が肯定イメージ、1項目が否定イメージであった。2項目（強いー弱い、軽いー重い）において新生児と妊婦、褥婦間に有意差を認めた。

経験別とイメージ平均点は図4-1~4に示した。

妊婦健診で受け持った5人以上群と6人以下群別での妊婦イメージは、態度と力量性には有意差は認めなかった。活動性の1項目（暖かいー冷たい）に6人以上群が有意に肯定イメージを示した。

褥婦受け持ち期間3日以下群と4日以上群の褥婦イメージ比較は、両群間には有意差を認めなかった。

分娩見学の有無と褥婦イメージ比較は、両群間には有意差を認めなかった。分娩見学の有無と新生児イメージ比較は、力量性の1項目（広いー狭い）に見学あり群に、活動性の1項目（強いー弱い）に、見学あり群に共に有意に否定イメージを表出していた。

2. 実習前と実習後の妊婦・褥婦・新生児のイメージの変化

1)妊婦・褥婦・新生児イメージの実習前後比較(表1-1~3)

実習前・後の妊婦、褥婦イメージ比較は、力量性で1項目、活動性で1項目以外は、実習前に比べ実習後は有意に肯定イメージが高くなっていた。新生児は、態度の3項目、活動性の2項目に実習後に有意差を認め、力量性4項目には有意差は認めなかった。

2)妊婦・褥婦・新生児イメージの実習前と実習後の相関

実習前・後の3イメージの相関をみると、妊婦イメージ平均点は $R:0.467$ ($p<0.01$)、褥婦イメージ平均点は $R:0.382$ ($p<0.01$)、新生児イメージ平均点は、 $R:0.469$ ($p<0.01$) でそれぞれ相関を認めた。

3)妊婦の受け持ち数、褥婦の受け持ち日数と新生児イメージの相関

妊婦健診受け持ち数と新生児イメージ平均点との間に $R:-0.271$ ($p<0.05$) で逆相関を認めた。産褥母子受け持ち日数と新生児イメージ平均点との間に $R:-0.267$ ($p<0.05$) で逆相関を認めた。

IV. 考察

母性看護学実習開始前と終了後に妊婦、褥婦、新生児のイメージを把握し、実習前は経験状況と、実習後

には実習体験との関連を検討した。

1. 学生の経験状況と妊婦・褥婦・新生児のイメージ 1)実習前

実習前の3イメージは、態度で新生児イメージが妊婦、褥婦イメージに比べ肯定イメージを表出し、力量性と活動性では、妊婦、褥婦イメージに比べ新生児に否定イメージの表出があった。このことは、母性看護学の対象者である新生児への行動準備状況は出来てきており、実習に対峙する姿勢はすでに整えられていると思える。しかし、新生児には、臨床実習に出て対象への直接的介入が「できるかな」という自己の能力、行動力に不安を示していることが推察できる。

経験別では、妊婦と会話、新生児抱っこは、50%以上の学生が体験者しており、経験ある者が肯定イメージを表出していた。一方、新生児のオムツ交換経験者は、力量性で否定イメージを表出していた。新生児へ関わる体験は、弱く小さな存在である児に、動く、泣くといった状況で、その体験が上手く出来なかったことがイメージを形成することもあり、成し遂げる力不足を実感し、消極的な行動となっていたのではないかと考えられる。

実習前の講義、演習特に演習においては、新生児の学習内容・方法の工夫に課題が残った。新生児の沐浴、身体計測などの実際を看護技術の必要な経験として取り入れているが、モデル人形を使用した教室内の学習の限界をいかに改善するかである。また、臨床看護の実際においては安全性の確保が第一であるので、学内での演習や事前学習に、実習指導者の直接的な指導が受けられるような人材の活用も必要と考える。

2)実習後

実習後の3イメージは、全体的に肯定イメージ得点が高くなっているが、態度は新生児が肯定イメージを示し、力量性では新生児は2項目に肯定イメージ、2項目に否定イメージ、活動性では1項目に否定イメージを示した。実習後の新生児イメージは態度では肯定イメージは更に高くなっていた。実習を体験して学生は、妊婦、褥婦、新生児に徐々にコミュニケーションや直接的な行動ができるようになり、対象からも感謝の言葉が発せられると、喜びや意欲も湧き、充実感を全身で表出するようになり、肯定イメージを高めたといえる。新生児の力量性、活動性では、肯定・否定イメージが混在し

た状況となっていた。これは実習前からのイメージが引き続き残っており、さらに、分娩見学をした学生は28名(42.2%)で、この体験者に力量性、活動性で新生児に否定イメージをより高く表出していた。分娩見学は実習当日突然におとづれる体験という特性がある。学生は分娩現象を看護者という立場でなく、出産している産婦の苦痛や喜びを共有している様が分娩見学レポートからも読み取れる。また、緊迫した分娩室の状況はビデオ学習では予想できない体験となる。個々の学生が持つ結婚・出産・育児観なども影響することから、事前学習の内容や方法の検討、その中でも個別的な準備状況を把握して対応することが重要と考える。

2. 実習前後のイメージ変化

実習前と後のイメージ変化は、実習後に妊婦、褥婦イメージは肯定イメージがより高くなっていた。このことは、1週間の外来での妊婦健康診査時、そして1週間の病棟での受け持ち褥婦の看護を通して肯定イメージが獲得できたという臨床実習の成果といえる。

新生児イメージは、態度は3項目に有意に肯定イメージは高くなっていた。活動性は2項目に肯定イメージ化へと変化していたが力量性は4項目とも変化は認められなかった。このことは、身近に新生児へ接近できる機会はあったが、見学のみで直接的なケアができなかったことや、積極的な行動に至っていないことが伺える。

3イメージ共に、実習前後に相関を認めた。実習前のイメージを肯定イメージとする、即ち、実習前準備が重要であることを示唆している。また、新生児と妊婦健診の数、受け持ち母子の日数とに相関を認めていることは、実習内容にも影響があることが明らかになった。外来における妊婦の受け持ちや病棟での褥婦の受け持ちの選定は、学生個々の状況が異なり、教育の機会均等の配慮は大変困難な状況である。その中で学んだ体験をグループで共有する有効な時間となるカンファレンス等は常に行っているが、学生の参加度には温度差が見られ、グループ活動の斬新的な手法を取り入れる工夫の検討は必須である。

V. まとめ

母性看護学実習前後に妊婦、褥婦、新生児のイメージ調査を実施し、経験状況等との関連を検討し、以下の結果を得た。

1. 実習前の3イメージ比較では、態度で新生児が妊婦、褥婦に比べ肯定イメージが高く、力量性、活動性では妊婦、褥婦に比べ新生児に否定イメージが高かった。
2. 実習前の3イメージを経験別にみると、妊婦、褥婦との会話、新生児抱っここのあり群に肯定イメージが、新生児オムツ交換のあり群に否定イメージが高かった。
3. 実習後の3イメージは、全体的に平均得点は肯定イメージが高くなっているが、新生児は、態度では肯定イメージは更に高くなっていたが、力量性と活動性では肯定イメージと否定イメージが混在した状況となっていた。
4. 分娩見学あり群に新生児イメージとの比較で否定イメージの表出がみられた。
5. 実習前と後の3イメージは実習前に比較して実習後の肯定イメージが有意に高くなっていた項目が多かった。
6. 実習前後の3イメージは総べて相関を認めた。

VI. 今後の課題

母性看護学実習前と後に大学生を対象に、妊婦、褥婦、新生児のイメージの変化を把握し、経験状況との関連を検討した結果、青年期にある学生が新生児との関わりに苦悩している課題が明らかになった。今後は、学生の対児感情の生成と発達、育児動機の変化を視点とした研究へと発展させたいと考える。

また、今後増えると予測できる男子学生の実習環境を整えることも課題である。在学生には、母性看護学の対象は「女性とそのパートナー、そして家族」であることを認識し、講義・演習においても男子・女子学生の区別なく、学生自身の現在と将来に係る学問として学びを深めている。新しい家族の誕生時に、男性はパートナーとしての女性への支援者という役割を担うだけでなく、共に親として育ていくことが期待される。

男子看護学生は今後更に増加するが、その要因について、日本看護協会は「看護師が専門職として認知されたことと、大学に看護学部が相次いで開設されたことに伴い、男性にとって学びやすい環境が整ったことではないか」とコメントしている。現状の問題を明らかにし、男子学生が伸び伸びと学習でき、看護職者としての役割が担えるための教育環境を整えていかなければならないと考える。

謝辞

本研究に協力して頂いた学生の皆様に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) 岩下豊彦：SD法によるイメージの測定，川島書店，1983.
- 2) 忠津佐佐和子，高見千恵，梶原京子：大学生の性・セックスのイメージ，思春期学，Vol.27.No.3，2009.
- 3) 今野真紀，八代利香，李笑雨：大学生の月経に対するイメージとセルフケア，母性衛生，Vol.49.No.4，2009.
- 4) 中越利佳，山口雅子：看護学生がとらえた乳児と早期新生児のイメージ，母性衛生，Vol.50.No.2，2009.
- 5) 植村裕子：母性看護学における育児擬似体験人形を活用した演習効果，母性衛生，Vol.49.No.1，2008.
- 6) 北川明美，森島昭子，鹿野真由美他：母性看護学実習における看護学生の対児感情の変化，母性衛生，Vol.49.No.3，2008.
- 7) 中瀬聖史，谷口初美：男子看護学生の母性看護学実習に対する意識，母性衛生，Vol.50.No.3，2009.
- 8) <http://news.ameba.jp/domestic/2008/01/10477.html> 男子看護師増加まだ偏見あるも現場は歓迎.

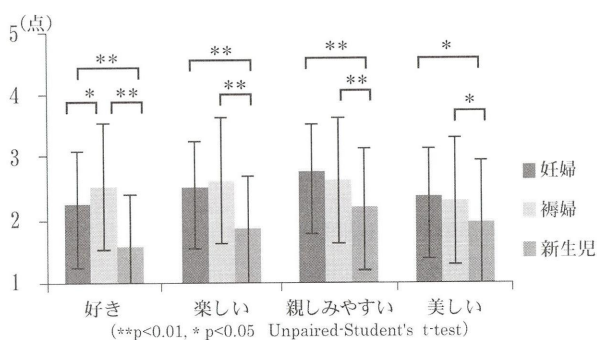


図 1-1 妊婦・褥婦・新生児の実習前イメージ 態度 (N=67)

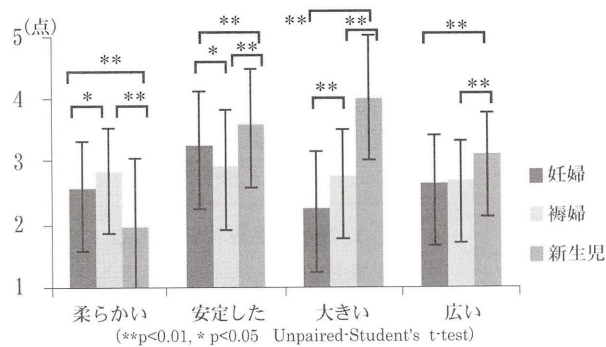


図 1-2 妊婦・褥婦・新生児の実習前イメージ 力量性 (N=67)

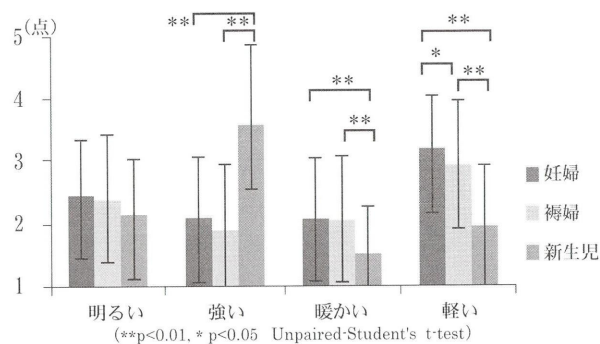
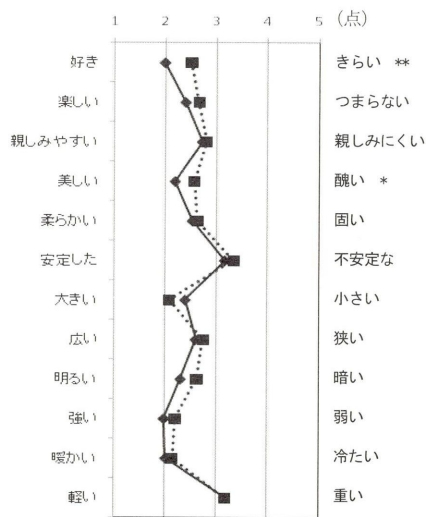


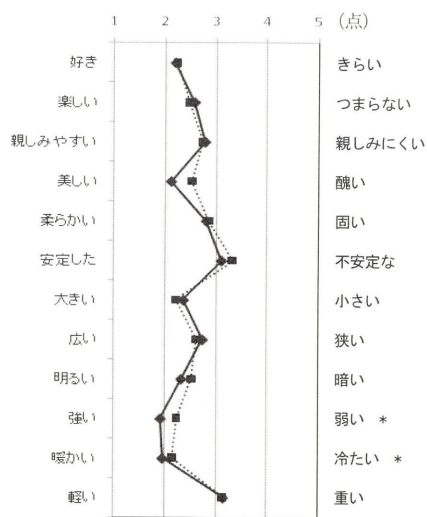
図 1-3 妊婦・褥婦・新生児の実習前イメージ 活動性 (N=67)



(**p<0.01, * p<0.05 Unpaired-Student's t-test)

— ありなし

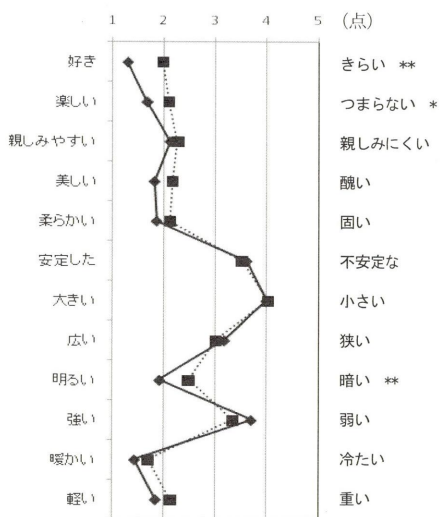
図 2-1 妊婦との会話経験による妊婦のイメージ (N=67)



(**p<0.01, * p<0.05 Unpaired-Student's t-test)

— ありなし

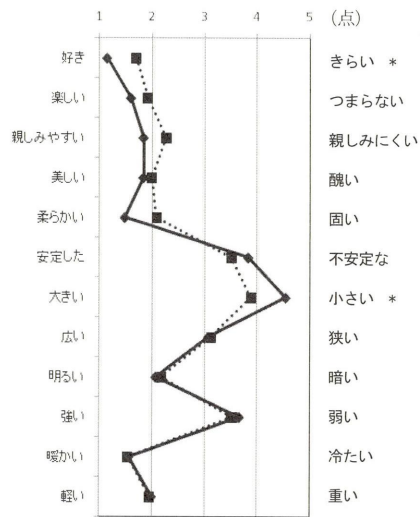
図 2-2 褥婦との会話経験による褥婦のイメージ (N=67)



(**p<0.01, * p<0.05 Unpaired-Student's t-test)

— ありなし

図 2-3 新生児の抱っこ経験による新生児のイメージ (N=67)



(**p<0.01, * p<0.05 Unpaired-Student's t-test)

— ありなし

図 2-4 新生児のオムツ交換経験による新生児のイメージ (N=67)

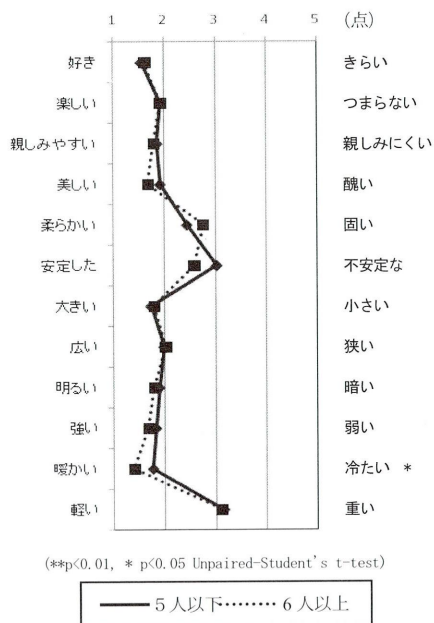
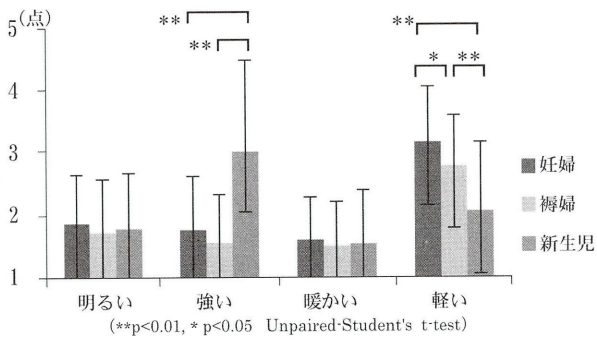
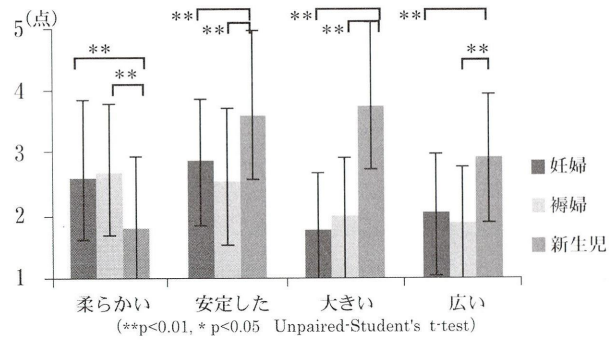
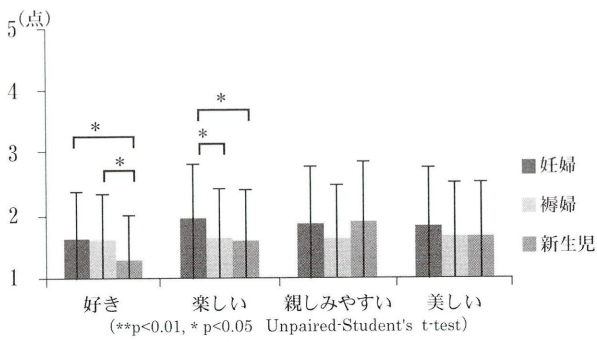


図 4-1 妊婦健診数による妊婦のイメージ (N=67)

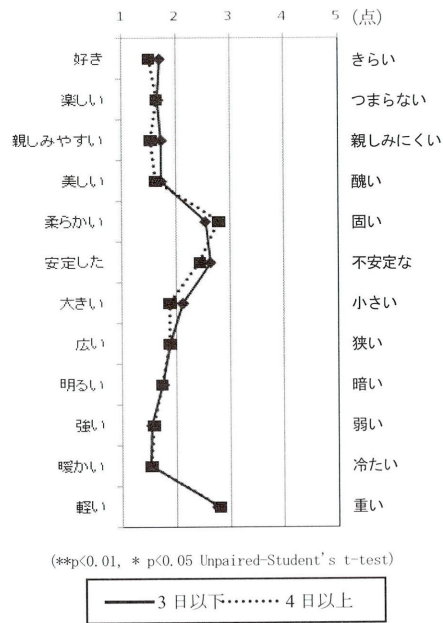
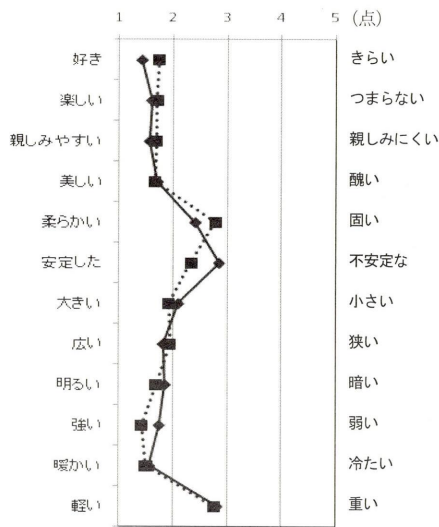


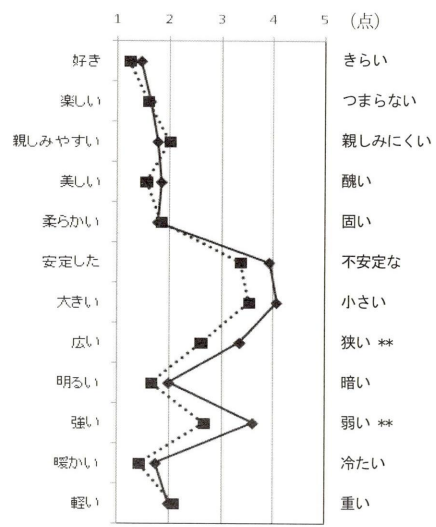
図 4-2 褥婦受け待ち日数による褥婦のイメージ (N=67)



(**p<0.01, * p<0.05 Unpaired-Student's t-test)

— あり なし

図 4-3 分娩見学の有無による
産婦のイメージ (N=67)



(**p<0.01, * p<0.05 Unpaired-Student's t-test)

— あり なし

図 4-4 分娩見学の有無による
新生児のイメージ (N=67)

表 1-1 実習前後の妊婦のイメージ (N=67)

項目	実習前後		検定	
	実習前 Mean ± S D	実習後 Mean ± S D		
態度	好き	2.25 ± 0.82	1.63 ± 0.74	**
	楽しい	2.54 ± 0.70	1.96 ± 0.86	**
	親しみやすい	2.78 ± 0.76	1.87 ± 0.89	**
	美しい	2.39 ± 0.76	1.83 ± 0.92	**
力量性	柔らかい	2.59 ± 0.72	2.61 ± 1.19	n. s.
	安定した	3.26 ± 0.86	2.85 ± 0.97	**
	大きい	2.25 ± 0.91	1.79 ± 0.88	**
活動性	広い	2.69 ± 0.72	2.04 ± 0.91	**
	明るい	2.48 ± 0.84	1.88 ± 0.79	**
	強い	2.10 ± 0.96	1.77 ± 0.87	*
	暖かい	2.09 ± 0.96	1.61 ± 0.70	**
	軽い	3.18 ± 0.82	3.16 ± 0.93	n. s.

**p<0.01, *p<0.05, (Paired t test)

表 1-2 実習前後の褥婦のイメージ (N=67)

項目	実習前	実習後	検定	
	Mean±SD	Mean±SD		
態度	好き	2.52±0.70	1.60±0.76	**
	楽しい	2.63±0.60	1.65±0.78	**
	親しみやすい	2.62±0.76	1.63±0.85	**
	美しい	2.30±0.76	1.67±0.86	**
力量性	柔らかい	2.86±0.66	2.68±1.04	n. s.
	安定した	2.92±0.90	2.54±1.13	*
	大きい	2.79±0.71	1.99±0.91	**
	広い	2.73±0.60	1.88±0.88	**
活動性	明るい	2.41±0.80	1.75±0.86	**
	強い	1.94±0.90	1.56±0.79	**
	暖かい	2.07±0.88	1.53±0.71	**
	軽い	2.92±0.59	2.79±0.81	n. s.

**p<0.01, *p<0.05, (Paired t test)

表 1-3 実習前後の新生児のイメージ (N=67)

項目	実習前	実習後	検定	
	Mean±SD	Mean±SD		
態度	好き	1.60±0.82	1.33±0.68	*
	楽しい	1.86±0.84	1.60±0.82	*
	親しみやすい	2.19±0.94	1.90±0.97	n. s.
	美しい	1.97±0.95	1.67±0.86	*
力量性	柔らかい	1.98±1.05	1.81±1.12	n. s.
	安定した	3.58±0.86	3.57±1.33	n. s.
	大きい	4.01±1.11	3.72±1.53	n. s.
	広い	3.12±0.64	2.90±1.02	n. s.
活動性	明るい	2.16±0.86	1.79±0.90	**
	強い	3.56±1.23	3.06±1.44	**
	暖かい	1.56±0.70	1.55±0.84	n. s.
	軽い	1.97±0.94	2.06±1.11	n. s.

**p<0.01, *p<0.05, (Paired t test)

